

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修シンガポール保健医療スタディツアー		
学部・研究科名	医学部		
実施期間	H26年8月23日～H26年8月31日		
研修先(国・都市・施設名)	シンガポール共和国・シンガポール市・SGH(シンガポール総合病院)		
参加学生数　：　7名		知の森基金からの支援者　：　7名	
プログラム概要	平成25年にシンガポール総合病院と信州大学医学部が締結した学術交流協定を基盤として、医学部保健学科学生が、シンガポールの保健・医療現場、教育施設を見学・体験することにより、アジア先進国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げる新規プログラムである。医学部保健学科夏期海外研修プログラムの一つとして位置づけ開始したプログラムで、平成26年度は、シンガポール総合病院、ナンヤン・ポリテクニクの臨床見学ならびにシミュレーション教育などを体験するプログラムとなっている。本プログラムは、信州大学医学部保健学科全専攻、全学年(看護学、検査技術科学、作業療法学、理学療法学)学生が参加可能である。		

実施状況・成果

- ・シンガポール研修は今年度が初回となるプログラムであり、研修の中心は医療機関と医療系人材育成を担う教育機関の見学が主な内容である。
- ・主な研修先の院内には、職員の現任教育専従担当者がおり、その担当者が研修生の対応も行うシステムが構築されていること、国際的に開かれている背景と盛んな医療交流がすでにあることから、SGHおよびNUHの医療機関では学生が多くの経験と学びを得ることができた。
- ・高水準に定評のあるシンガポールの教育・研究および医療について、学生は肌で触れることができた。大規模かつ最先端の医療水準を保持しようとする院内システム、加えて、高い水準のサービス提供への誇りとそれを支える専門職現任教育のしぐみに大きな驚きを得ていた。これらから、自らの学びへの意欲が喚起されたと思われる。
- ・さらに、いわゆるアジア・イングリッシュに多く触れ、自らの英語力を試す機会や、多国籍の国民が多く存在する社会を体感し、国際的な感覚を養う機会ともなり、研修や自由行動を通して自身で行動するという自律性も経験して、今後に大きな刺激となったと判断できる。
- ・以上の事柄は、報告レポートからも色濃く窺え、シンガポール短期研修プログラムは学生にとって非常に有益なものとなったと考える。

学生の声①ー医学部・保健学科 学生

初めて海外へ行って、受け身ではだめだということ・最初からできないと決めつけずに挑戦してみることで、もっと広い視野で物事をとらえて生活していかなければいけないということを痛感しました。自分で行動・主張する力が弱いと言われる日本人の中で暮らしているとあまり実感はありませんでしたが、少しずつ積極的になって行動できるようになり、より多くの事も学習できるということが分かりました。「海外に行く」と視野が広がる」という話は、やはり本当だと感じました。異国の文化・習慣・価値観・医療や教育現場などから多くの学びを得ることが出来ました。

学生の声②ー医学部・保健学科 学生

シンガポール総合病院(SGH)の心血管系の理学療法についてだが、日本がシンガポールに後れを取っている事実を垣間見た。日本では心血管系は内部障害としてくられており、その治療で理学療法がオーダーされることはあまりない。SGHでは入院患者専用の心臓リハビリテーション室が入院フロアにあり、エルゴメーターなどの機材も10台近く備えられていた。NUHでは理学療法部門の中に心臓リハビリテーション専門のチームがある。今回はそのチームの理学療法士のかたについて1対1で見学させていただく機会が得られ、内科系疾患に興味のある私にはとても有意義だった。

SGH: 初日オリエンテーション



NYP: シミュレーションルーム

